

役場核にコンパクト化

公共施設再編

【上士幌】町市街地に点在する公共施設の再編整備が本格的に動きだしている。少子高齢化が進む中で、人口規模に見合ったコンパクトな街並み空間の創出を目指し、役場を中心に認定こども園や福祉、医療施設など諸機能の集約を図る狙い。国が掲げる「地方創生」の実現に向けた一大事業の動向が注目される。(小縣大輝)

町長が将来像

「地方が抱える課題は山積しているが、そうした状況下でいかに元気なまちを目指すかが地方創生の鍵を握ると思う。深刻な人口減少時代を見据え、わがまちはコンパクトでにぎわいのある街並み形成の視点から公共施設の再配置を進めている」。上士幌町役場で8月末に行われた十勝町村議会議員会の研修会で、竹中貢町長はまちの将来像について語った。

400m圏内

こうした「予測」に、上士幌は「第5期上士幌町総合計画」(2012～21年度)を策定。「まちづくりアドバイザー」で、北海道大学大学院工学研究院の森傑教授が提唱する「まちの整体」を

国立社会保障・人口問題研究所が昨年発表した2040年の将来人口推計によると、上士幌の人口は3222人(今年8月末で4919人)に落ち込み、65歳以上の割合は42.5%(同33.9%)まで上昇。また、上士幌を含む管内13町が人口減少に歯止めがかからない「消滅可能性都市」に該当するデータも出ている。地方では子供を産む

人口減見据え…異世代交流、コスト減期待

来年4月の供用開始を目指して建設中の認定こども園



「ニック」として移転新築し、加えて「介護老人保健施設かみしほろ」を併設。特別養護老人ホーム「上士幌すずらん荘」の南側に、社会福祉法人上士幌福寿協会が運営する「地域密着型特別養護老人ホーム」と「小規模多機能型居宅介護事業所」、「地域交流スペース」の3施設を開設する。来春の供用開始をめどに工事が本格化する中、役場北側の道路(約270m)の拡幅工事は既了しており、導線が引かれて歩行者だけでなく車も通行できるように生まれ変わった。

居住で課題も

また、発達支援センターと学童保育所、高齢者生きがいセンターを統合する形で「生涯学習センター」を現在地に改築する計画も進行中。多機能集約型でインフラに要する整備や維持管理のコスト削減につながり、異世代交流も期待される。着工は来年9月ごろで、供用開始は16年度となる見通しだ。



上士幌保育所に代わって教育と保育を一体的に行う「認定こども園」を保育所の南側に新設。介護・医療面では社会医療法人北斗(帯広)が運営する現行の「社会医療法人北斗十勝恵愛会病院」を役場北側に「上士幌クリ

上士幌「地方創生の鍵」

上士幌クリニックと介護老人保健施設かみしほろの工事が進む作業現場。手前は新たに開通した道路



まちな構造が変わりゆく一方では、移転跡地の活用や空き家・空き地が66件確認されている中心部の居住環境の向上といった課題もある。竹中町長は「住宅整備計画を策定して検討する」とし、「誰もが安心して暮らせるまちづくりを成功させたい」と話している。